

# えりも海岸林における多様な森林づくり

～クロマツ林から針広混交林化へ向けた取組～

日高南部森林管理署 えりも治山事業所 治山技術官 瓜田 元美  
西舎森林事務所 一般職員 齋藤 諒介

## 背景・目的

北海道えりも岬国有林ではかつて「えりも砂漠」と呼ばれるほど土地が荒廃していましたが、昭和28年に開始された緑化事業により官民あげての試行錯誤の末、現在では豊かなクロマツ海岸林が再生しています。先代の方々が再生してきた海岸林を維持しながら、病虫・気象害に強い多種多様な森林へ誘導するため、現在のクロマツを主とした森林から針広混交林化へ向けた取り組みを進めています。

## 取組の内容

### 1. 事業での取り組み

①本数調整伐（健全な成長を図るため下木を調整して伐採すること）  
本数調整伐を行い、空間を空けることによって林内・林床に光を入れ、クロマツの成長肥大や広葉樹の天然更新を促しています。

### ②樹下植栽

広葉樹の天然更新が期待できない場所では、本数調整伐を行った跡地に広葉樹の樹下植栽を行っています。エゾシカの食害を受けにくく、活着の良いハンノキやシラカバを中心に植栽しています。



樹下植栽

### 2. 本数調整伐試験地での調査

平成2年に針広混交林化を目的に設定された本数調整伐試験地の天然更新が良好なことから現況を把握するために調査を行いました。

#### 【試験地の概要と施業履歴】

面積 1.66 ha 昭和47年にクロマツ24,900本を植栽（15,000本/ha）

平成2年調整伐列状（伐率40%・2伐3残） 平成10年調整伐定性（伐率30%）

平成21年調整伐定性（伐率20%） 平成27年調整伐定性（伐率25%）

#### 【調査内容】

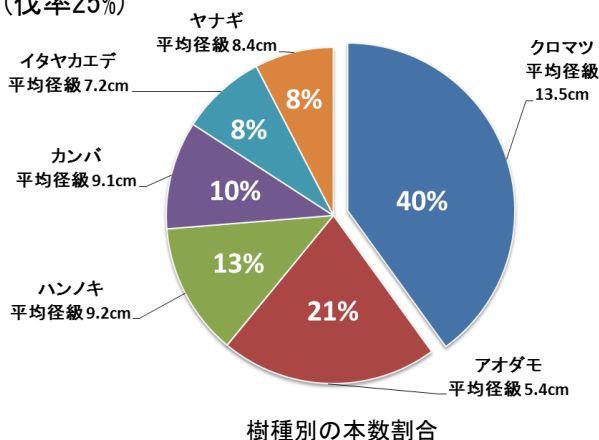
20m×20mのプロット4箇所において径級4cm以上の立木について樹高、径級の毎木調査を実施しました。

#### 【結果と考察】

植栽当初はクロマツのみの林分でしたが、現在はクロマツと広葉樹の本数比は4:6となっています。本数調整伐を段階的に実施したことにより広葉樹の天然更新が促進されたとともに更新木が育成した事が分かります。針広混交林化へ向け、一定の成果が得られたと言えます。



天然更新したアオダモ



## 今後の展開

- 本数調整伐試験地においてはクロマツと更新した広葉樹の成長を継続して観察します。
- 現在天然更新している樹種は主にアオダモ、イタヤカエデ、ハンノキ、カンバなどであり、更に多様な樹種で構成される林分を目指していきます。そのために本数調整伐後の樹下植栽では本来の生態系で自生していたミズナラなどその他の樹種についても植栽を検討します。
- 天然更新が良好な箇所については、試験地の伐採回数や伐採率を踏まえ、調整伐により更新木の育成を期待します。

今後も、えりも海岸林に合った方法を模索しながら多種多様な森林づくりを目指していきます。